

TOPICS
3

トピックス…③

平成28年度加工原料乳生産者補給金単価および交付対象数量

農林水産省は平成27年12月18日、食料・農業・農村政策審議会（会長：生源寺眞一 名古屋大学大学院 教授）に対し、平成28年度畜産物価格等について諮問を行い、その答申を踏まえ、平成28年度加工原料乳生産者補給金単価および交付対象数量を決定した。

加工原料乳生産者補給金単価および交付対象数量

平成28年度加工原料乳生産者補給金単価は、バター・脱脂粉乳等向けが前年比0.21円下げの12.69円/kg、チーズ向けが同0.25円下げの15.28円/kgに、交付対象数量は前年と変わらず、バター・脱脂粉乳等向けが178

万トン、チーズ向けが52万トンに決定した（表参照）。

バター・脱脂粉乳等向け補給金単価の引き下げは、3年連続で引き下げられた平成17年度以来11年ぶりとなる。チーズ向け補給金単価は、チーズ向けが加工原料乳に追加された平成26年度以来初めての引き下げとなる。

加工原料乳生産者補給金単価および交付対象数量

		27年度	28年度
バター・脱脂粉乳等向け生乳	補給金単価	12.90円/kg	12.69円/kg
	交付対象数量	178万トン	178万トン
チーズ向け中乳	補給金単価	15.53円/kg	15.28円/kg
	交付対象数量	52万トン	52万トン

加工原料乳生産者補給金の算定方法

加工原料乳生産者補給金単価は、前年度単価に、直近の物価で修正した生乳1kg当たりの生産費（3年平均）の変動率を乗じて算定することになっている。なお、食料・農業・農村政策審議会の答申においては、生産者補給交付金に係る加工原料乳の補給金単価および交付対象数量について、生産条件、需給事情及び物価その他の経済事情を総合的に考慮すると、この考え方で定めることが妥当であるとしている。

平成28年度加工原料乳生産者補給金単価および交付対象数量の具体的な算定結果は次のとおりである（図参照）。

直近の初妊牛価格が堅調に推移している一方、副産物収入である子牛価格や廃用牛価格も堅調に推移している結果、「搾乳牛1頭当たり生産費の変動率」は0.9920【I】

となった。

また、1頭当たり乳量が増加傾向で推移した結果、「搾乳牛1頭当たり乳量の変動率」は1.0085【II】となった。

この「搾乳牛1頭当たり生産費の変動率」を「搾乳牛1頭当たり乳量の変動率」で除して求めた「生産コスト等変動率」は0.9836となる。

平成27年度単価（脱粉・バター等向け：12.90円、チーズ向け：15.53円）に、「生産コスト等変動率」を乗じて、28年度単価（脱粉・バター等向け：12.69円、チーズ向け：15.28円）とした。

また、加工原料乳生産者補給金交付対象数量は、脱脂粉乳・バター等および国産ナチュラルチーズの需要見込みを踏まえ、これらの用途向けの生乳供給量として必要と見込まれる数量を交付対象数量として設定した。

